

3. 協議事項

(1) まちづくり全般に関する取組検証提案について

■事前アンケートによりご提案いただいたテーマ

1	テーマ	高齢化地域での生活援助
	内 容	
	理 由	
2	テーマ	小中学校のスクールバス導入について
	内 容	・登下校時の児童の安全について不安を感じている保護者の割合 ・自家用車での学校送迎について、共働きの家庭が感じている負担感の度合い ・スクールバスを導入する通学区域について（自宅から学校までの距離の目安） ・バス会社によるスクールバス運用の試算
	理 由	公立小中学校に通学する児童の中には、片道1時間前後をかけているケースも少なくない。これまでは「足腰を鍛える好機」として捉えられてきた側面があるが、平成世代が親世代になりつつある現在、保護者の受け止め方に大きな変化が生じている。 ①児童の安全確保に対する危機感 全国的に熊や猪等の里山への出没、不審者による犯罪などが増加傾向にある中、小学生の集団下校は学年差により極少数人数となっている。また、冬季期間は日照時間が短く、遠隔地の子ども達は薄暗い中を登下校しなければならない、安全が確保された登下校の実施は困難である。 ②異常気象による影響 連日の猛暑の影響は児童の身体に残り、突然の熱中症や予期せぬ体調不良が起きる可能性について、多くの医師や医療機関等が警鐘を鳴らしている。WBGTが危険数値を示すような日に遠距離の登下校を行わせるのは危険であり、子どもを送り出す保護者の心情を真摯に受け止めるべきである。 ③移住者の受け止め 遠距離登下校に対する受け止め方は、以前からの定住者には当然の事柄でも、県外や都市部からの移住者には同様ではない。市として多くの移住者を受け入れる方針であれば、安全に配慮された通学方法に関する施策を実行すべきである。 ⇒ 児童の安全を第一に考えるのであれば、一刻も早くスクールバスを導入すべきである。

3	テーマ	自治会加入
	内 容	単身者・外国人等増加する中での加入のあり方
	理 由	単身者や外国人は自治会参加について情報もなく、メリットも感じにくい。これから、単身者や外国人はますます増加するのではないと思われる。 ゴミ出し等の問題（ルール）もあるため、何らかの対応等が必要だと思う。
4	テーマ	まちづくりに対する理解、まちづくり参加への意識の高揚等を含め、「まちづくり」をより活発化するための手立て
	内 容	・ 条例のPR ・ 自治会ハンドブックの有効活用 ・ 自治会加入促進 ・ 子ども及び若者のまちづくりへの参加促進 ・ 企業、大学等との協定締結
	理 由	「まちづくり」そのものについての認知度がまだまだ高いとは言えない。まちづくり活動をより活発化するための手立てを、さまざまな方面から検証したい。